



Introduction to philosophy for children

みんなで一緒に考える

子どもの哲学の対話のじかん



発行日 2012.6.29 初版1刷
 発行 兵庫県立大学環境人間学部 豊田光世研究室 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12
 TEL&FAX / 079-292-9410 Email / toyoda@shse.u-hyogo.ac.jp
 協力 ハワイ大学子どもの哲学研究チーム (p4c Hawai'i)
 制作 夕雲舎

「今日は何について考える？」

問いを立てることから、対話のじかんは始まります。

NANINI
TSUITE?



子どもの哲学では、日々の暮らしや学校の学びのなかから生まれた問いについて、ゆっくり、じっくり、みんなで一緒に考えます。「もっと知りたい、聞いてみたい」という「知の欲求」に身をゆだね、ことばの海をおよぎながら、分からないことや不思議に思うことを探究し、新たな発見や深い理解を生み出していきます。大切なのは、子どもたちが問いを立てることです。彼らが面白いと思うテーマについて掘り下げることで、さまざまな考えやさらなる問いが膨らんでいきます。

子どもの哲学が追求するもの

philosophical inquiry

簡単には答えを導くことができない哲学的な問いと向き合うこと

哲学（フィロソフィー）は、世界のあらゆることに違った角度から光をあて、分からないことを明らかにしていく営みです。「なぜ?」「どうして?」と不思議に思う気持ちから大切に、簡単には答えの出ない問いについて、少しずつ掘り下げながら吟味していきます。子どもの哲学では、他者と疑問や考えを共有しながら、自分では気がつかなかった視点から物事を見て理解を深める「対話による探究」を行います。

子どもの哲学の基本のステップ

① 輪になって座ります。

お互いの表情が見えることが、コミュニケーションを円うえで大切です。円座は立場の平等性も象徴しています。

② 問い（対話のテーマ）をみんなで選びます。

本を読んだり、絵を見たりして、問いを考えることもあれば、日頃から感じている疑問について考えることもあります。みんなで考えたい問いを教え合った後に、どの問いについて考えるかを決めます。

④ 最後に自己評価。

聞く姿勢、話す姿勢、集中力、セーフティー、考えの深まりなどを一人ひとりが評価します。

③ ツールを使って対話を進めます。

ファシリテーター（進行役）のリードにより、みんなで考えを共有しながら問いに対する答えを探究します。子どもたち自身で対話をファシリテートできるように、3つのツールが開発されています。（3-4ページ参照）

intellectually safe community

安心して対話に参加できるコミュニティーづくり

「みんなからすごいと思われることを言いたい」「こんなこと言ったら、他の人にばかにされるかもしれない」こうした思いが頭をよぎり、発言をためらってしまうことはありませんか。物事をさまざまな角度から吟味するには、頭に浮かんだ考えや思いを誰もが素直に共有できる場をつくる必要があります。互いの考えに耳を傾け、異なる視点を受けとめていく姿勢をもたなければ、対話は進まないでしょう。安心して対話に参加できるコミュニティーをつくることで、子どもたちの生き生きとした感性や豊かな発想力が広がっていきます。

みんなで一緒に考えるための 3つのツール

① コミュニティーボール

みんなで毛糸を巻いて、コミュニティーボールをつくります。このボールを使って対話を進めます。

【コミュニティーボールの作法】

ボールを持っている人が話をする。

意見を述べたい人は、手をあげてボールをもらう。

まだ発言していない人に、できるだけボールをまわす。全員の意見を聴きたい時は、ボールを一周

させる。ボールが回ってきた時に何も話したくない場合はパスできる。

コミュニティーボールを使うと、子どもたち自身で次の話し手を決めることができます。



② 対話を進める魔法のことは

コミュニティーボールをもっていなくても口にできる魔法のことは、対話をファシリテートするうえで重要なフレーズを学びます。

IDUS (イダス)

I don't understand.
よく分からないのですが…

SPLAT (スプラット)

Speak a little louder,
please.
もう少し大きな声で話してもらえますか？

POPAAT (ポパアット)

Please, one person
at a time.
一度に話すことができるのは一人だけだよ。

★この他にも魔法の言葉はたくさんあります。

③ 考えを深める7つのキー。

WRAITEC の7つのアルファベットが書かれたカードを使って、質問を投げかけます。他の人が話したことに対し、意味や理由を問い、理解を深めていきます。

Reason

なぜ？
どうして？
意見の背後にある理由を聞きます。

Assumption

この意見の根っこには、どんな考えがあるだろう？
一つ一つの考えがどんな前提や想定にもとづいているかを明らかにします。

Inference

その考えはどこから来たの？
過去の体験や考えから、いろいろなアイデアが導かれていくプロセスに目を向けます。

True

それって本当？
意見や考えが本当に正しいかを問い直します。

Example, Evidence

例えばこんな時があるよ…
事例や証拠を探しながら、意見の信憑性を示します。

Counter-example

でもさ…、けどね…。
反例を示しながら、意見の信憑性を問います。

探究のコミュニティは、
少しずつ育まれていきます。

SENSE-!



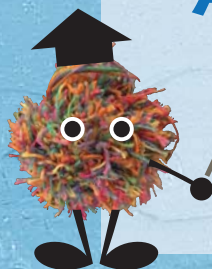
日本の小学校で開催の様子 ▶



Q. 考えが深まったときって、どんな時？

A.

- ・今まで思いつかなかった側面からものごとを見た時
- ・新しい発見をした時
- ・問いに対する答えが見つかった時
- ・頭の中がぐちゃぐちゃした時！？



ステージ 1

子どもたちは、ツールの使い方を学びながら、指導者のサポートのもと、対話を進めていきます。

ステージ 2

ツールの使い方に徐々に慣れてきました。問いを深めたり、対話を進めたりするために、指導者は必要に応じて対話を止めて、セーフティーや考えの深まりを確認します。

ステージ 3

指導者は、コミュニティの一員として、子どもたちと共に対話に参加します。



5

6

「子どもの哲学」という教育は、世界各地でそれぞれの地域の文化的・社会的ニーズに合わせて、少しずつ形を変えながら草の根的に発展してきました。平和教育、リーダーシップ教育、批判的思考力の育成など、学校が力を入れている教育テーマと融合しながら、多様な形で実施されています。

こうした発展が可能だったのは、この教育が、かっちりとした枠組みをもつプログラムではなく、対話による哲学的探究をベースにした教育の基本的理念と手法を示したものであり、フレキシブルに応用可能だからです。

また、「子どもの哲学」は、よりよい学びのコミュニティづくりにつながると評価されています。自ら問いをたて、他者と意見を交わしながら考えることを繰り返すなかで、積極的にテーマと向き合い、多様な角度から吟味する姿勢が育まれています。

対話を始めるうえで大切なことは、子どもたちの「哲学する力」を信じることです。あせらずに、ゆっくりと、コミュニティボールをまわしてみてください。みんなのことが徐々につながっていき、新たな気づきが生まれるはずですよ。

